

氏 名	和 田 智 顕
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 3965 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 21 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	Differences in clinical manifestations of influenza-associated encephalopathy by age (インフルエンザ脳症における年齢別臨床的特徴)
論 文 審 査 委 員	教授 山田 雅夫 教授 大塚 頌子 准教授 氏家 寛

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

インフルエンザ脳症の年齢分布と年齢別の臨床的特徴を調査するため、本邦において 1998 年から 2002 年の 4 年間に発症し、厚生労働省研究班に報告された 15 歳以下の 472 例について解析した。症例を 0-15 歳と 6-15 歳の 2 群にわけて比較を行い、0-5 歳の群におけるデータを基準にオッズ比と 95% 信頼区間を算出した。年齢分布は 1-2 歳をピークとして、発症数が年齢と逆相関していた。0-5 歳の群と比較して 6-15 歳の群では有意にインフルエンザ B 型ウイルスによる発症が多くみられた。また初発神経症状としてはけいれんが少なく、意識障害と意識変容が多く見られた。血液検査上トランスアミナーゼの上昇が有意に少なく、入院時の頭部 CT では低吸収域の頻度が少なく、後遺症率が低かった。本研究によりインフルエンザ脳症は臨床経過、検査データ、頭部画像所見などにおいて、年齢による差異がみられることが判明した。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、インフルエンザ脳症における全国調査を行い、疫学的解析によって年齢別臨床的特徴を明らかにすることを目的としている。本邦の 1998 年から 2002 年の 4 年間に発症し、厚生労働省研究班に報告された 15 歳以下の 472 例について解析し、症例を 0-5 歳と 6-15 歳の 2 群に分けて、オッズ比と 95% 信頼区間を算出して比較している。年齢分布は 1-2 歳にピークを示し、発症数と年齢は逆相関を示している。0-5 歳の群は 382 例、6-15 歳の群は 90 例で、0-5 歳の群と比較して 6-15 歳の群では、インフルエンザウイルス B による発症が多くみられた。また初発神経症状として、6-15 歳の群では、けいれんが少なく意識障害と意識変容が多くみとめられた。さらに血清トランスアミナーゼ上昇が少なく、入院時の頭部 CT では低吸収域の頻度が少なく、後遺症率が低かった。このように、本研究は、インフルエンザ脳症の臨床経過、検査データ、頭部画像所見などにおいて、年齢による差異が認められるという重要な知見を示す価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。